

「おじちゃんせんせい、みてますか」

卒園児 小学一年生

「おじちゃんせんせい、だいだーいすき。いっぱいありがとう。」

いま、ぼくは、このことばをおじちゃんせんせいにつたえたいです。

このほんは、ぼくのかよっていたほいくえんのせんせいをもとにしたおはなしです。とてもだいすきなほんで、なんかいもなんかいもよんでいます。みんな、おじちゃんせんせいのおひざがだいすきでいつもとりっこでした。おひざにすわると、あたたかくて、こころがほっとするからです。

けいたくんは、おひるねがきらいです。おかあさんがこいしくなっていないと、おじちゃんせんせいは、

「がまんせんでええぞ。おもいきりなけや。」

といってずっとおんぶしてくれます。けいたくんは、きつとうれしかったとおもいます。おじちゃんせんせいのせなかは、あたたかくておちつくからです。ぼくだったら、

「なかないで、はやくねなさい。」といってしまいかもしれません。

けいたくんは、かけっこもにがてです。でもおじちゃんせんせいが、いっぱいおうえんしてくれたから、ゆうきをもらえてはしる事ができました。

このほんをよむとほいくえんのことをおもいだします。おじちゃんせんせいにあいたくなくて、ちよっとさみしくなります。おじちゃんせんせいは、びょうきでおそらにいつてしまったからです。ぼくは、もう一ねんせいになりました。おおきくなったら、がんばっているすがたをみてもいいです。そしておじちゃんせんせいのように、だれにでもやさしくできるひとになりたいです。

「おじちゃんせんせい、これからもおそらのうえからおうえんしてね。ぼくね、ゆうきがでないときもあるんだけど、けいたくんみたいにあきらめないでがんばるからね。」

